

平成 21 年度「OB と語る会」講師リスト

【学部 化学コース 3 年生対象】

日 程	講師氏名	卒 業 年	勤 務 先	講演タイトル
6 月 9 日 (火)	平井 太郎 氏	応化 S41 年卒	日本ゼトック(株) 最高顧問 (国大化学会副会長)	大切なものは？—クリエイティブあるいはイマジネーション？—
	篠原 才司 氏	物質工学科 H6 年卒 H8 年修士 H11 年博士修了	神奈川県環境農政部廃棄物対策課	行政機関に就職して

【大学院 先端物質化学・環境情報工学府 (博士課程前期 1 年生対象)】

日 程	講師氏名	卒 業 年	勤 務 先	講演タイトル
11 月 25 日 (水)	佐藤 登 氏	電化 S51 卒 S53 修士修了	サムスン SDI 常務	研究者・エンジニアの目指すところ
	藪 健一郎 氏	応化 S53 卒	日本経済新聞社 デジタル編成局	科学を広げる, 楽しむ

OB と語る会を経験して

篠原 才司 (平成 6 年物工卒)

昨年 6 月, OB の一端として学生の皆さんと楽しい時間をすごさせていただきました。私が卒業してからの大学はいくつかの棟が新たに建設され, 構内にコンビニができ, 通路にエコごみ箱が設置されるなど, 若干様変わりしていましたが, 学生の皆さんは私がいたころと変わっていないなと感じました。

私は, 現在, 神奈川県庁環境農政部廃棄物対策課というところに籍を置いています。神奈川県が抱えるごみ問題, 特に, 市町村のごみ処理施設の設置に関する助言, 県のごみ処理の統計等の業務を行っています。これまでにも, 公害規制や環境監視業務にもかかわりましたが, はっきりいって, これまで大学で学んだことが直接必要になった機会はありせん。しかし, 研究論文を理解することと, 法律を読

むことは非常に似通ったところがあるように, 共通項と言えるべき部分, つまり仕事をする上で必要な素養とは何か, またいかにして大学在学中に学んでいくか等を中心に, いわゆる国大化学会の OB としては, 就職先の王道である製造業ではなく, 行政職という職種の内容の特殊性については若干の話にとどめました。昨今の就職率の低さなどもあり, 決して面白い話というわけでもなく, 話が上手いわけではありませんでしたが, 思っていた以上に熱心に耳を傾けてくれた方々がいたのが幸いでした。

今後, 社会に出ていく皆さんに向けた話としてはまだ十分とは言えませんが, 何らかの収穫があれば幸いです。

OB と語る会の講師を務めて

藪 健一郎（昭和 53 年応化卒）

2009 年 11 月 25 日の朝は雨模様の一日の始まりでした。それでも午後はすっかり雨は上がってしまい、OB と語る会に伺うため、久し振りに横浜国大の校門を抜けた時には、長い傘が場違いな感じさえました。1978 年に卒業した頃にはまだ植えたばかりだった木々が雨上がりの空を鬱蒼と覆っていました。

私は学部卒業後すぐに日本経済新聞社に入りサイエンスという科学雑誌の編集部配属されました。その後新聞編集に移り、15 年ほど新聞記者を経験し再度、日経サイエンスと名前を変えた雑誌に戻り総計 10 年間科学雑誌の記者をしました。

製造業や研究職で活躍されていらっしゃる OB の方々がこれまでは語る会でお話になってきたと聞いていました。たまには変わり種の業種の話もおもしろいのではと、今回伺った次第です。

とはいえ、果たしてマスコミという業種に対して学生の方々が興味を持って下さるのか、正直心配でした。と同時に、今の大学生、大学院生は一体どのような考えの持ち主なのか話してみたいという興味もありました。

話のタイトルは「科学を広げる、楽しむ」。何よりも新聞社に入ろうと思った大きな動機は、科学がおもしろいのを多くの人に伝えたいという思いからでした。それとともに、これから社会に出ようとする人たちに、まずは楽しんで仕事をしてもらいたいという思いも込めたつもりです。

OB と語る会は物質工学科化学棟の教室で開かれました。30 人ほどが入れる室にポツリポツリと学生が現れます。15 時からの開始で、階上の窓からの景色は鬱蒼とした樹木が下に、その上に空が見え 1 階より明るく見えました。学生が中ほど両横の席から埋まっていくのは何かの講演会の時と同じです。

パワーポイントで話を始めました。皆じっとこちらを向いていますが、反応はいまひとつです。確かに字が余らない画像で、ノミの研究者ミリアム・ロスチャイルドやノーベル化学賞受賞者ベドノルツの写真ばかり見ても眠くなるに違いありません。

と思い、やおらポケットから 2 つの同じ大きさの紙テープの輪をセロテープで十字に張り合わせた紙を取り出し、右手にハサミを持って質問をしました。「2 つの紙の輪の中央を 2 つの細い輪になるよ



うハサミで全部切るとどうなるかわかりますか」。これは今まで質問してみて十中八九は当たりませんでした。今回も正解は出ませんでした。もしかするとわかっている人もいたのかもしれませんが。ここでは答を出しませんので、皆さんも一度試してみてください。意外な形が現れるかもしれません。

新聞、雑誌記者の頃の体験談をしているうちに、あっという間に 45 分の持ち時間は終わり、少し時間をオーバーしてしまいました。後でお話された佐藤登・サムスン SDI 常務、済みませんでした。

2 人の話が終わると食堂に場所を移し、懇親会が開かれました。広い大学キャンパスの中には 2 つ食堂があり、工学部側のこの食堂は夜も実験を続ける学生にとっても便利な食堂のようです。

關先生の挨拶で乾杯をした後、学生も私たちの周りに徐々に集まってきました。最初はこわごわ話をしにきているようでした。私の卒業した研究室の後輩に当たる学生たちが集まってくれたようです。

就職の話になるとニュースでも言われているように厳しいという話でした。ただ、色々な話をしていくうちに、なかなか横浜国大の学生は広い興味を持っている人がいるのだなと感心しました。化学や科学の話題だけでなく、広く世の中に流れている話題、ニュースをきっちりキャッチする好奇心を持ち、自分なりの考えを持っている学生と話ができました。

今年金融関係の会社に入るという学生からは「周りが文系の人たちばかりの中で働くのには苦労がなかったですか」という質問を受けました。私の場合、サイエンス編集部はほとんどが理系出身者でしたから、入社当時は必ずしもそれに当たる職場ではあり

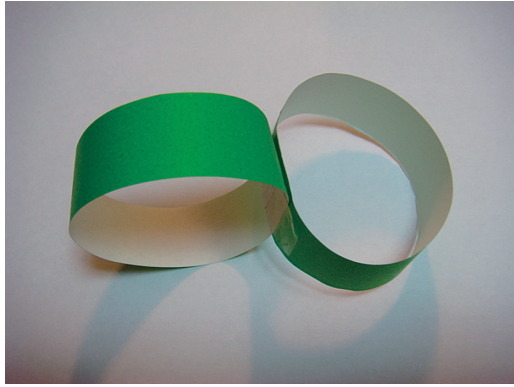


写真 同じ大きさの紙テープを2つ十字に貼り合わせ、それぞれのテープの中心を2本ずつの細い輪になるよう切り離してみると？

ませんでした。新聞記者時代はいわゆる周りは文系ばかりということもありました。ただ、この学生に話したのは「社会に出れば理系も文系もないのではないか」という点でした。

確かに理系の大学を出ているのですから、それを

生かすのは大切でしょう。ただ、日経の経済問題専門の論説委員でも理系の記者になることもあります。理系文系にかかわらず何よりもその仕事に興味を持って取り組めるか、その分野に情熱を保ち続けられるかが肝心だと思います。

大学を卒業して30年を迎えた一昨年の秋、応用化学科の同じ年の仲間と同窓会を開きました。40人のうち20人が集まり、大変楽しい時を過ごしました。同窓生の中には化学とはまるで関係がないと思われる職業についている人も結構います。それぞれの分野で多に活躍されているようでした。化学はもちろんのこと、芸術や医学や金融といった分野にも情熱を持ち続け生きていくのは、厳しくもあり、楽しい人生なのではないかと思います。

懇親会が終わり建物の外に出ると、すっかり日は暮れ木に覆われたキャンパスは真っ暗でした。ただ、学生と話した後の帰り道は元気をもらい、晴れやかな気分であったのは確かでした。

「OB と語る会の講師を務めて」

佐藤 登（昭和51年電化卒、昭和53年電化修士修了）

2009年11月25日に「研究者・エンジニアの目指すところ」という演題で「OB と語る会」の講師を務めた。2003年の同じ11月25日にも「常にIdentityを持つ」という演題で講師を務めたことがあるが、その時はホンダにおけるエンジニアとしての立場から、そして今回は韓国企業サムスンの役員として経営側からの立場で自説を論じた。

1) ホンダでのキャリアで得たもの

1979年から最初の10年間に取り組んだ自動車の腐食制御技術の開発で大きな成果を上げたが、当初は諸先輩のKKD（勘と経験と度胸）論理との闘争、それを超える技術的論争から自分の論理で技術確立を行い、腐食問題の解決に貢献し品質向上につながった事例を紹介した。

その結果、ホンダでの研究成果によって歴代4人目の学位取得者となり、その後は好きな仕事を自ら選択できる環境を提供いただき、1990年には自発的に新技術領域の基礎研究所へ異動させていただいた。

そこでの新たなテーマはカリフォルニア州で発効した電気自動車の開発販売義務に対応すべく、自動



車用大型二次電池開発の研究に着手した。1997年にはニッケル水素電池を搭載した世界初の電気自動車をカリフォルニア市場に送り込むとともに、新電池研究のプロジェクトを拡大させるに至った。

2) サムスンでのキャリア

ホンダの研究所経営方針と自身の技術思想との乖離が強くなっていた2004年に、サムスンからのヘッドハンティングがあり、総合的に考えて移籍した経緯、現在のサムスンにおける自分の役割、特に

理系の魅力とは

世の中を進化させ、豊かな社会を創造する力強い原動力

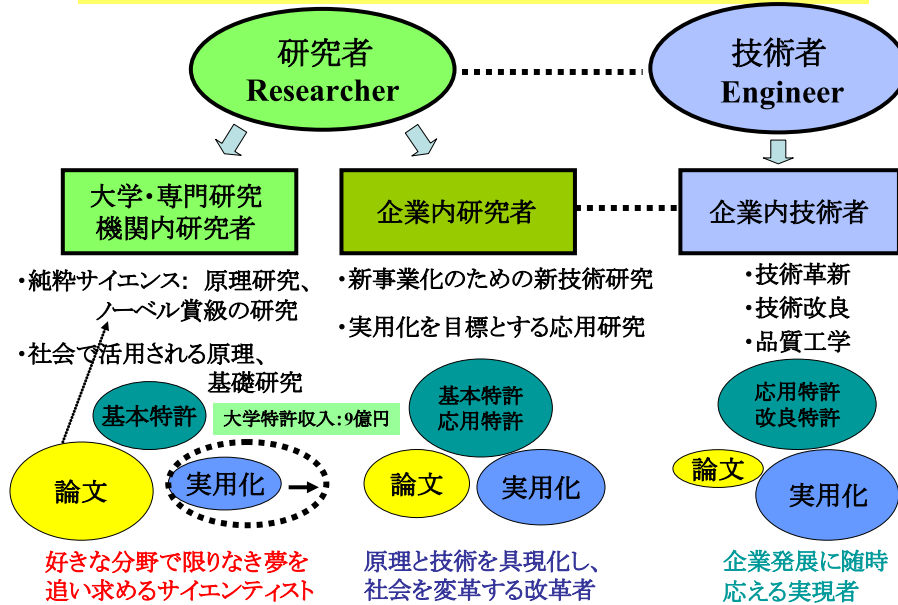


図1 理系の魅力と研究者・技術者の役割

研究戦略や事業戦略に関しての選択と集中，仕分けについて実施している内容を具体的に説明した。

日本と韓国の文化の違い，企業間の考え方の相違，企業人としての日本人と韓国人の比較分析をしながら，様々な経験ができて役立っている。研究開発の着手や撤退に関するプロセスもそれぞれ一長一短あるが，企業と個人の国際社会での生き残りを考えると，自己の存在感を主張する韓国文化にいささか遅しさを感じる。

役員・幹部の責任の所在については極めて明確な韓国企業の場合には，事業や研究テーマが失敗するとその責任の取り方は日本企業に比べてとても明確であり，特に役員の場合には責任を取らされて去らざるをえない緊張感が漂っている。

3) 理系の役割と魅力，進むべき方向

ホンダとサムスンでの経験から理系の魅力について考えながら，研究者と技術者の進むべき方向について，図1のような整理のもとで体系化した。

いずれにしろ現代社会における自己開拓は目的・目標の明確化とともに，自分のアイデアや考えを具現化し実行に移すことによって道が開ける。そ

のためには，特許や論文などの知的財産を個人の武器として蓄財すること，そしてそれを企業活動の一環として客観的普遍的価値につなげるストーリーとして創り上げることの重要性を伝えた。

今回の講演が学生諸君にとって有益であったとすれば幸いであるが，今後の国際社会で大きな成果を出し，社会に貢献できる人材が多数輩出されることを期待したい。

著者略歴 1976年学部卒，78年修士課程修了後，本田技研工業(株)入社。社内研究成果により88年東京大学工学博士。97年度名古屋大学非常勤講師兼任。99年から4年連続「世界人名事典」に掲載。(株)本田技術研究所チーフエンジニアを経て，04年9月からサムスンSDI(株)へ常務取締役として移籍。エネルギー研究開発部門統括。05年度東京農工大学客員教授兼任。2008-2010年秋田県学術顧問。2009年9月からは日本へ帰国し，東京の日本サムスンに席を構え活動中。HP: <http://members.jcom.home.ne.jp/drsato/> 日韓比較文化新聞連載記事全文掲載中。